

『現代語形容詞用法辞典』（飛田良文 浅田秀子著 平成3年7月 東京堂）

『日本語語感の辞典』（中村昭 2010年11月 岩波書店）

『日本語ウオッチング』（井上史雄 1998年1月 岩波新書）

参考資料

現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

聞蔵Ⅱ (朝日新聞記事データベース) 朝日新聞記事検索サービス (asahi.com)

ヨミダス歴史館 (読売新聞データベース) ヨミダス歴史館 (yomiuri.co.jp)

毎索 (毎日新聞記事データベース) 毎日新聞社のデータベース「毎索」(g-search.or.jp)

『日本語新辞典』（松井栄一編 2005年1月 小学館）

『日本国語大辞典 第2版』（2003年10月 小学館）

「激しい」と「厳しい」の用法

以上のことから、最初に違和感を持ったような「激しい暑さ」などの使用法は、今後とも増加していく方向にあると考えられる。

- 注1 ここでは、BCCWJで語彙素「きびしい」、後方共起1語名詞と設定して得られた結果である。
- 注2 新聞記事については、数値に偏りが出ないように、『朝日新聞』『読売新聞』『毎日新聞』の3紙による検索件数を示す。なお検索結果は2021年8月12日のものである。用例について、特に記載のない場合は「朝日新聞」の記事から引用している。
- 注3 ここでは「夏」の件数を示した。この他に「夏場」が9件、「夏の大会」が3件、「夏祭り」が1件見られるが、これはここでの件数には含めていない。また本のタイトル「アテネの激しい夏」が延べ6件用いられており、これは1件として示した。同様に「冬」についても冬場、冬山、冬季、冬季競技などの件数は含めていない。さらに「消耗の激しい夏」のように「激しい」が直接「夏」を修飾していない場合は除いて考えた。
- 注4 激しい反対の（ ）内は「反対運動」、厳しい反対（ ）内は「反対意見」の数を示す。
- 注5 BCCWJでは他に「厳しい陽」「厳しい夜」「厳しい夜風」「厳しい雷雨」が検索された。これらの語については、新聞記事では用例が検索されなかった。
- 注6 Twitterは、2021年8月1日から10日までの期間で検索された件数である。
- 注7 ここで取り上げた語は「強調を表す漢語語構成要素の研究」（伊藤太一 2019年度卒業論文）を参考にした。これはYahoo!ブログから使用例を抽出したもので、本文中に示した語以外にも「激厚、激温、激重、激遠、激低、激速、激軽、激堅、激深」など、「程度大」の意味の形容詞にも、「程度小」の形容詞にも結合した場合が存している。
- 注8 『日本語ウオッチング』参照。
- 注9 「爆」には「爆暑」「爆甘」「爆辛」「爆寒」「爆旨」などの造語がある。「極」には「極甘」「極辛」「極寒」「極暑」「極眠」などの造語がある。
- 注10 本文中には「厳」+「形容詞、形容動詞」の場合を挙げたが、「厳戒」「厳顔」「厳禁」など、この構成以外の場合も存している。

参考文献

『動詞・形容詞・副詞の事典』（森田良行 2008年9月 東京堂）

れたことも、「激しい」が「厳しい」の使用域へ用法を広げていくことを側面から支えているものと考えられる。

一方「厳しい」には、「厳」を構成要素とする語は「厳寒」「厳正」などいくつかの語が存している。『日本国語大辞典』で「厳」+「形容詞、形容動詞」の場合を見ると、以下の13語が登録されている^(注10)。

厳急 厳肅 厳峻 厳暑 厳詳 厳重 厳正 厳密 厳明 厳厲 厳冷
厳麗 厳烈

これらの語を見ると、例えば「厳寒」は『日葡辞書』にも立項があり、古くから用例が存する語ばかりであることがわかる。他の語についても記録などの漢字文献に例が見られる語ばかりである。「激」による造語の場合では用例も記載されない、近代以降に使用されるようになった場合が立項されている。「激～」と「厳～」には、語が出現する時期に違いが見られる。「厳～」は古くから見られる語であり、「激～」の場合のように新しく強調語の要素として盛んに用いられるような変化は見られない。こうしたことも、「厳しい」と「激しい」の現在の使用状況の違いに影響を与えているものと考えられる。

6 まとめ

今回の調査から「厳しい」と「激しい」の違いについて以下のようにまとめることが出来る。

「激しい」は「想定以上の甚だしい程度」を表す場合に使用され、「双方向的」「継続的」「反復的」である場合に使用される。「ひどい」との互換性は高く、マイナスイメージを表す場合もあるが、必ずしも「迷惑」や「被害」を表す場合に用いられるわけではない。また「激しい」は「厳しい」より口語的な場合に多く使用が見られる。一方「厳しい」は、常套的に用いられる表現であり、「厳格さ」が感じられたり、成果を評価したりする場合にも用いられる。

また、「激しい」について、近年増加しつつある用法が確認される。これは、インターネットや、造語成分としての「激」の使用と、「激しい」の増加とが関連が認められる。

味覚を表す形容詞に上接する場合として「激甘、激酸、激酸、激苦」がある。また「激旨、激眠、激暑、激寒、激冷、激臭」などの感覚を表す要素に上接して出来た語も存している。さらに状態を表す語には、「激浅、激安、激多、激高、激硬、激細、激太、激広、激狭、激小、激長、激短」など状態を表す要素に上接する場合も存している。

これらの語のように、様々な意味の新たな造語が見られ、「激」による造語力がある状況が見られる^(注7)。

ただこれらの語については、その多くが辞書類に立項されていない。『日本国語大辞典』に登録されている「激」+「形容詞、形容動詞」の造語は、「激辛」「激寒」「激甚」「激痛」「激安」「激烈」の6語のみである。『日本語新辞典』にはこれに加え「激暑」「激臭」があるが、立項されている語は多くない。また、用例の出現時期を見ると「激寒」「激甚」以外の場合は明治期以前には用例が見られない。これらは比較的新しい造語であることがわかる。また、辞書に登録されている「激辛」「激安」には、意味記述のみで用例が挙げられていない。こうした語構成には、歴史的に古い時代の用例はなく最近になって造語力を持ったことを示すものである。

さて、こうした「激」が使用されるようになったのはどのような理由があるだろうか。その要因として、これに先行して盛んに用いられた強調の意を表す造語成分である「超」が多用されたことが考えられる。「超」は1980年代に若い世代から使用されるようになったとの調査結果もある^(注8)。「超速」「超おいしい」など形容詞形容動詞に上接する以外にも、例えば「超歩いた」のように動詞などにも上接する場合がある。かなり広い要素に上接し、幅広い使用が比較的長く続いた。こうした「超」が多用され続けられれば、強調の意味としてのインパクトや目新しさを失っていき、これに代わる別の新たな表現が必要になる。そうした際に、「超」に似た強調を意味する一字漢字である「爆」や「極」などと相乗して、「激」の使用が広がったものと考えられる^(注9)。

語構成要素の「激」は形容詞「激しい」の語幹である。形容詞の語幹を先行要素として強調語が造語されたことになる。こうした造語はこれまであまり見られなかった。「激」にこうした新たな使用法が生まれ、盛んに用いら

BCCWJで、書字出現形で検索される「同意」の全2987件の中で500件を見ると、前接する副詞的な要素がどの程度存しているかを見る。すると次に挙げるように異なり語数で9語が見られるのみであり、「同意」に上接する副詞的要素はあまり多く存していないことがわかる。

激しく 6件 喜んで 渋々 速やかに 最終的に 全面的に 短く 全く
にわかに 各1件

なお「激しく」は、6例すべてがYahoo!知恵袋に見られる例であり、「激しく同意」という用法はこうしたインターネット上の使用に限られるのではないかと考えられる。また、ここに挙げた「全く」「にわかに」は、「全く同意しない」のように打消しを伴う場合に用いられている例である。

つまり、「同意」は本来、強調語とともに用いられない。普段は強調語と結びつかない「同意」に「激しい」が前接することは一種の破格の用法となる。そうした用法は、新鮮さを求めた造語法であると考えられる。新鮮さは造語力を生む要因となり、「激しい」を他の様々な要素に上接するようになったものと考えられる。

またこの場合の「激しく」は「ひどく」との互換性は低く、マイナスの語感を持っておらず、この点でも従来の用法からの変容が認められる。

5.2 造語成分「激」の拡大

「激しい」が使用域を広げた別の一要因として、強調の意の造語成分としての「激」の使用が拡大したことも挙げられる。強烈に辛い物を好む傾向が見られたことがある。朝日新聞の天声人語では1986年11月2日の「辛口食品ブーム」というコラムに「激辛」の語があり、紙上で確認される最も古い例である。「激辛」は時代のブームになり、この語は拡散していった。インターネット上の出現時期を見るためYahoo!知恵袋を検索すると、2004年の使用例が存している。「激」は強調を表す造語成分として様々な要素に上接するようになり、こうした造語は今日にも続いている。

ここで「激」+「形容詞、形容動詞」の場合について注目し、具体的にはどのような語が存しているのかについて見る。

5 「激しい」が使用されるようになった理由

ここまでの「厳しい」と「激しい」の状況を見ると、以下のようにまとめることができる。

まず、従来「厳しい」が用いられていた部分にも、一部ではあるが「激しい」の使用が見られる場合が認められる。ここでは、「激しい」が、新たな使用が見られる点を観察し、「激しい」の使用が見られる点について考えていく。

5.1 ネットスラングとの関係

最近ではあまり使用されているの見なくなったが、かつてネットスラングといわれる語群のなかに「禿同」という表現が用いられていた。これは「激しく同意」が縮約されて「激同」がまず使用された。さらに「激（はげ）」と同音である「禿」に置き換えられて「禿同」が使用されるようになった。言葉遊び的な使用法である。インターネット上の掲示板などで示された他人の意見に対して、賛同や共感を示す場合に用いられた語である。類似の造語として「禿禿」「禿笑」「禿藁」なども存している。

インターネットでの使用状況を見るため、Yahoo!知恵袋を検索すると、このサービスがはじまった2004年の使用例が多く存し、この頃には使用が盛んになってきたことが窺われる。Yahoo!知恵袋の質問の具体例を見ると次のような場合もある。

(27)「よく2ちゃんにでる「禿同」も意味と読み方を教えてください」(2004年8月19日)

これに対する回答は次のようにある。

(28)「読みは「はげどう」で意味は「激しく同意」と。ものすごく同意してるんですよ！って感じじゃない？」(2004年8月19日)

「激」から生まれた「はげ」が、強調語として用いられていることがわかる。

これまでの使用法としては「同意」に前接する要素として「激しく」などの強調を表す副詞類が用いられる場合はあまり多くないものと考えられる。こうした使用法は、いわば破格の用法と言えるのではないだろうか。試みに、

4 使用文体の違い

「激しい」と「厳しい」の出現状況の違いについては、出現する文体による違いも影響しているのではないだろうか。「厳しい」による表現も「激しい」による表現も存する場合について見ると、「激しい」はより口語的な文体で多く使用されていると考えられる。そこで、口語的な用法を見るため、Twitter で用いられる「激しい」について見ていく。

Twitter で期間を10日間に設定し「激しい」と「厳しい」がどの程度の件数が存しているのかについて検索を行った。その結果「激しい暑さ」は45件、「厳しい暑さ」は93件存していた^(注6)。

「厳しい」が多く見られることに変わりはないが、新聞記事で検索した場合より「激しい」の使用例が多く存していることがわかる。新聞記事では「激しい」は「激しい」の9.5倍存していたがTwitter では2.1倍になる。用例を見ていく。

(24) 気温は36℃猛暑日 激しい暑さ 水分補給しながら休憩 (8月5日 ゆーみ@ Yumi)

(25) 真夏の激しい暑さを感じる夕方 (8月2日 ポチっと hiro 櫻セゾン @ sgism)

(26) 地球温暖化による激しい暑さ(8月7日 瞬間英単語@ flashwords-RJ)

これらの例では後接する「暑さの程度が甚だしい」ことを意味している。Twitter では、新聞記事などに比べて、短期間に比較的多くの「激しい暑さ」の用例が得られる。

また同様に「激しい寒さ」と「厳しい寒さ」の場合でも2021年1月1日から10日まで検索すると、「激しい」16件、「厳しい」85件が存していた。新聞記事では「激しい」が746.3倍と圧倒的に多いが、Twitter では5.3倍であり、やはり「激しい」が使用される割合は高くなっていることがわかる。

こうした使用状況から、「激しい」が使用される環境は、より口語的な場合であると考えられる。

「激しい」と「厳しい」の用法

反対」という意味である。

これらで「激しい」が多く用いられているのは、いずれも「意見のやり取りが何度も交わされる」場合や「双方向的な動作」の場合である。別の言い方をすれば「継続的」「反復的」である場合に用いられる。マイナスの語感を持つ場合もあるが、「ひどい」に置き換えるのは容認度は低い場合である。

これに対し、「口調」や「意見」は互いのやり取りではなく、一方的な発言などの動作であり、「双方向的」や「継続的」「反復的」な動作ではない。その場合は「激しい」よりも「厳しい」の方が使用されることになる。

| | | | | |
|------|-------|---------|---------|---------|
| 「口調」 | 激しい口調 | 朝日37件 | 読売292件 | 毎日308件 |
| | 厳しい口調 | 朝日1242件 | 読売1540件 | 毎日1083件 |
| 「意見」 | 激しい意見 | 朝日85件 | 読売109件 | 毎日74件 |
| | 厳しい意見 | 朝日3780件 | 読売3348件 | 毎日2893件 |
| 「指摘」 | 激しい指摘 | 朝日0件 | 読売1件 | 毎日0件 |
| | 厳しい指摘 | 朝日1612件 | 読売1522件 | 毎日1247件 |

「激しい指摘」が用いられている場合について見る。

(23) この日の討論でも「解党的出直しが必要」との激しい指摘も出ており、
(読売 1991年4月24日)

「解党的」という言葉は、党員にとっては刺激的な表現である。こうした表現を使用したことが、「激しい」が使用された要因と考えられる。ここでは「度を越した、極端な指摘」という意味で用いられている。多少批判的な書き方ではあるが、「ひどい」との互換性は低く必ずしもマイナスの語感を持っていない。

これらのことから、「激しい」が使用されるのは、「双方向的」「継続的」「反復的」「刺激的」な場合であり、また「迷惑」や「被害」のイメージがある場合である。

一方で「厳しい」が使用されるのは、「厳格さ」が感じられたり、成果を

こと」の意味と、「働きかけること」の両方の意味がある。そのため、「激しい」と「厳しい」が同程度の出現状況になっている。

3.3.2 「厳しい」より「激しい」が多く用いられる場合

ここまで「厳しい」が多く存している場合について見たが、次の語のような場合には「激しい」が多く見られる。例えば「討論」「抗議」「攻撃」といった「動作性」のある名詞であり、「双方向性」があるやり取りが行われる場合である。具体的には次の語の場合のように、「言葉のやり取り」や「争い」の「程度の甚だしさ」については「激しい」が多く使用され、叱責の意味が含まれる場合では「厳しい」が多く使用されていることがわかる。

「激しい」よりも「激しい」で修飾される場合が多い語には次のような場合がある。

| | | | | |
|------|-------|---------------|-------------|-----------------------------|
| 「抗議」 | 激しい抗議 | 朝日330件 | 読売276件 | 毎日288件 |
| | 厳しい抗議 | 朝日34件 | 読売19件 | 毎日29件 |
| 「討論」 | 激しい討論 | 朝日40件 | 読売44件 | 毎日23件 |
| | 厳しい討論 | 朝日1件 | 読売3件 | 読売1件 |
| 「攻撃」 | 激しい攻撃 | 朝日470件 | 読売326件 | 毎日402件 |
| | 厳しい攻撃 | 朝日26件 | 読売36件 | 毎日26件 |
| 「議論」 | 激しい議論 | 朝日836件 | 読売752件 | 毎日644件 |
| | 厳しい議論 | 朝日92件 | 読売70件 | 毎日56件 |
| 「反対」 | 激しい反対 | 朝日509 (327) 件 | 読売281件 | 毎日277件 |
| | 厳しい反対 | 朝日34 (24) 件 | 読売37 (13) 件 | 毎日30 (11) 件 ^(注4) |

次に、用例を見ていく。

(21) 「独立をしたいのか」などと激しい反対もあるが、議員らはどういった認識なのか尋ねた。(2019年7月19日)

(22) どこも資源採掘や電力、鉄鋼などの大口融資先を抱え、「脱炭素社会」を目指す内容は激しい反対にあった。(朝日 2019年11月4日)

「激しい」については、「反対」の程度が「甚だしく強い」という意味である。先に見たように「激しい言葉」の場合と同様の意味で「強烈で容赦のない

「厳しい訓練」

(20) 穏やかな海で水上特攻の厳しい訓練を重ね、南方の戦地へ赴いた。(2021年1月28日)

「激しい練習」や「激しい訓練」は、練習や訓練について「運動量や頻度の多さ」について表現する場合に用いられている。この場合「激しい」は必ずしも「好ましくない事柄」という意味ではなく、「ひどい」との互換性はない。

「厳しい」は「練習」や「訓練」を形容する際に常套句的な表現である。そうした「訓練」や「練習」の結果、その「成果を評価する」プラスの意味合いがある。「激しい」とは異なり、「練習」や「訓練」に良い評価を伴う場合に用いられている。「量的」な意味よりも「いい加減なところがなく、規律が取れている」という含意がある。

いずれの場合でも「激しい」にはある程度の件数が見られるものの、「厳しい」のほうが多く検索される。「厳しい」が用いられている文脈では、「厳格さ」によるプラスのイメージが含意される。ただ、「激しい」で表現される例も、この場合には「ひどい」との互換性はなく、「迷惑」や「被害」のイメージは持っていない。

次に、「訓練」や「練習」に類似した意味を持つ語である「運動」「活動」の場合について見ていく。

| | | | | |
|------|-------|---------|---------|--------|
| 「運動」 | 激しい運動 | 朝日1252件 | 読売1135件 | 毎日657件 |
| | 厳しい運動 | 朝日18件 | 読売9件 | 毎日5件 |
| 「活動」 | 激しい活動 | 朝日36件 | 読売26件 | 毎日26件 |
| | 厳しい活動 | 朝日33件 | 読売26件 | 毎日23件 |

「運動」については「訓練」や「練習」とは異なり、「激しい」が多く使用されている。「練習」や「訓練」は、その「成果を評価する」活動であるため「厳しい」が用いられる。「運動」は、「①身体を動かすこと。②「目的を達成するために働きかけること」(『日本語新辞典』)といった意味がある。「身体を動かすこと」については、その「程度の甚だしさ」を表現するのに「激しい」が使用される。「活動」については、「運動」のように「身体を動かす

「激しい」より「厳しい」が多い場合

自然現象を表す場合とは異なり、人の言葉や行動を表す語に対しては、「激しい」より「厳しい」が多く用いられている。以下、具体的に見ていく。

「言葉」 激しい言葉 朝日661件 読売379件 毎日365件

 厳しい言葉 朝日2094件 読売1904件 毎日1635件

(15) オリンピックの賛否を巡り、SNSで激しい言葉が飛び交う。(朝日 2021年7月28日)

(16) 「総理大臣であった者が、秘書がやったことだと言って関知しないという姿勢は国民感情として納得できない」と厳しい言葉でつづった。(朝日 2021年7月31日)

「激しい」言葉の用例は、「強烈で容赦のない」言葉が「何度も、繰り返し」使用されるといった意味である。「厳しい言葉」は「反対や批判の主張」という意味になる。この場合は「激しい」との互換性はない。用例を見ていく。

また、以下で扱う語は「動作性」を持った名詞である。その中で「練習」や「訓練」のように、その動作の結果としての成果を求める活動を意味する場合には「厳しい」が多く使用されている。

「練習」 激しい練習 朝日412件 読売380件 毎日295件

 厳しい練習 朝日4972件 読売4823件 毎日5017件

「訓練」 激しい訓練 朝日76件 読売26件 毎日48件

 厳しい訓練 朝日753件 読売878件 毎日678件

「激しい練習」

(17) 朝から晩まで続く激しい練習に息を切らしながら、「みんなで乗り越えよう」と仲間を励ました。(朝日2019年10月5日)

「激しい訓練」

(18) 夜間、低空飛行などの激しい訓練が想定されるだけに、基地周辺や訓練予定地の住民の安全確保は不可欠である。(2018年8月24日)

「厳しい練習」

(19) 仲間と励まし合い、厳しい練習に耐え、皆さんは本日の開会式への切符を手にしました。(2021年8月11日)

- (13) 関越自動車道の車の立ち往生は18日夜に解消したものの、激しい雪に除雪作業が追い付かず、(2020年12月20日)

「激しい」は、「迷惑」「や」「被害」のイメージが伴う場合があることがわかる。

「厳しい」は「冷え込み」「寒気」「日差し」などの「現在置かれた状態・状況の過酷さ」を表す場合に使用例が多い。これに対して「激しい」は、「甚だしい程度」である「嵐」や「豪雨」「雷雨」などが「継続的、反復的」である状況を表現する際に用いられる。程度が甚だしい「嵐」や「豪雨」には被害のイメージが伴っている。

「厳しい」が修飾する語に比喩的な意味がある場合には、次のように「被害」や「迷惑」を表す例が見られる。

「厳しい嵐」

- (14) そうしたきずなが結婚の根拠となり、厳しい嵐を乗り切る船の支柱の役割を果たします。(2008年8月9日)

この例で「嵐」は「感情の激しい揺れや、社会、家庭、人生を揺るがすような重大事のたとえ」(『日本語新辞典』)といった比喩的な意味で用いられている。

また、この「厳しい」が修飾する語に比喩的な意味がある場合、「激しい」に置き換えると容認度が下がる。こうした場合では「ひどい」との互換性がない。「厳しい」は「迷惑」や「被害」のイメージはないのだが、比喩的な用法の場合では、「激しい」のように「迷惑」や「被害」の意味にも使用される。そのため「ひどい」との互換性が生じるものである。

3.3 自然現象以外の場合

次には自然現象を表す意味以外の場合、おもに人間の行動について「激しい」と「厳しい」が用いられている場合で、注目される場合について見ていく。

3.3.1 人間の活動を表す語について

人間の活動を表す語に上接する場合は、「激しい」が多く見られる場合と、「厳しい」が多く見られる場合とが存している。

ただ、「厳しい風」については、他の場合に比べると、用例数が若干多めに存している。この原因として、次のような比喩的な意味での使用例が多く存することが挙げられる。

「厳しい風」

(12) 立憲民主党の躍進を受けて「やはり私どもに対するまだ厳しい風が吹いている」と振り返った。(2017年10月24日)

この例の場合のように「厳しい風」は、「強いマイナスの雰囲気、潮流」といった意味であり、自然現象としての「風」の意味ではない。比喩的に用いられ、抽象的な意味を持っている場合である。「厳しい風」のこうした意味での使用法は、新聞記事では選挙などの際に政党に対する世間からの負の評価を表す際に繰り返し使用される、いわば定型的な表現として用いられている。そのため他の場合と比較して「厳しい風」の件数が多くなっているものと考えられる。またこの場合の「風」は「瞬間的、突発的」なものではなく、「長期的、継続的、反復的」なものである。これは以上に見た「厳しい」が使用される状況と共通している。

その他の「厳しい」「激しい」が自然現象に用いられている場合について、その出現件数を以下に見ていく^(注5)。

| | | | | |
|------|-------|--------|--------|--------|
| 「嵐」 | 激しい嵐 | 朝日32件 | 読売49件 | 毎日21件 |
| | 厳しい嵐 | 朝日2件 | 読売4件 | 毎日3件 |
| 「雪」 | 激しい雪 | 朝日270件 | 読売209件 | 毎日173件 |
| | 厳しい雪 | 朝日47件 | 読売33件 | 毎日24件 |
| 「雷雨」 | 激しい雷雨 | 朝日665件 | 読売711件 | 毎日484件 |
| | 厳しい雷雨 | 朝日0件 | 読売0件 | 毎日0件 |
| 「豪雨」 | 激しい豪雨 | 朝日22件 | 読売25件 | 毎日23件 |
| | 厳しい豪雨 | 朝日0件 | 読売2件 | 毎日0件 |

これらを見ると、いずれの場合でも「激しい」の方が多く使用されている。また、「激しい」で表現される例を見ると、次の例のように「ひどい」との互換性が存する場合がある。

「激しい雪」

「激しい」と「厳しい」の用法

れどのような場合であるか、以下見ていく。

まず、「激しい」が多く使用されている場合が存しているのは、「風」「雨」「嵐」などの場合である。以下のように、「風」での出現件数は同程度であり、「風雨」では「激しい」が多く見られる。

「風」 激しい風 朝日188件 読売250件 毎日157件

厳しい風 朝日145件 読売290件 毎日273件

「風雨」 激しい風雨 朝日456件 読売515件 毎日338件

厳しい風雨 朝日4件 読売12件 毎日6件

ここでは、「風雨」についての用例を見ていく。

「激しい風雨」

(9) 下田市の白浜大浜海水浴場が激しい風雨によって浸食され、石ころだらけの海岸に一変。(2008年5月25日)

用例(9)は、「一変」とあることから、急激に変化したことが窺われる。

「激しい」状態は「継続的」や「反復的」なものではないと考えられる。

「厳しい風雨」

(10) 豊かな森と溪谷美は、厳しい風雨によって磨かれた絶景でもある。(2011年9月6日)

(11) 娘も梅の木同様、これから世間の厳しい風雨を受けるであろう。(2000年4月9日)

用例(10)で、「厳しい」は長年にわたる「過酷な自然の営み」を表現する語である。

用例(11)は、「世間からの厳しい仕打ち」を「風雨」に譬えた表現である。「世間の荒波」という別の表現もある。これらはいずれも単に「程度が甚だしい様子」を表す用法とは異なっている。いずれも「長期的、継続的、反復的」に受ける攻撃や苦難を形容する機会が多いのではないだろうか。

また「暑さ」「寒さ」と「風」「風雨」には、その状態にも違いがみられる。「暑さ」「寒さ」を動きのない「静的な状態」と捉えたとするなら、「風」や「雨」「風雨」は「動的な状態」という違いがある。これも「風」や「風雨」について「激しい」が多く見られる理由ではないだろうか。

甚だしさ」に表現の主眼がある場合である。季節や寒暖を表す語については、「激しい」による表現も散見する様になった。しかし、定型的に用いられていた「厳しい」の使用法に影響するほどには使用数が増えていないというのがここまでの状況である。

「厳しい」が使用される際に定型的な使用法があると述べた。今回用例を採取した新聞記事における表現では、同じ形容が繰り返し用いられる傾向がある。季節などの事象や定例行事や一定の間隔などで起こる現象などを表現する際には、定型的な言い方が繰り返し用いられる傾向が見られる。例えば「暑さ・寒さ」の「程度の甚だしさ」を表現するのに、一度「厳しい」が使用されると、別の語を用いた表現で言い換えることはほぼ行われぬ。これまで用いられてきた表現を踏襲し、繰り返し同じ表現が使用される。これは文学などに見られる言語の使用法とは異なり、新聞記事で独特なものである。独自性がある、個性的な表現は選択されない。同じ表現が使い続けられるため、季節など繰り返し発生する事象に用いられる延べ語数は多くなる。「気象」や「不景気」などの事象は、新聞では毎年のように繰り返し記事になる。「厳しい」を用いた表現が定型化することで、「厳しい」と「激しい」の延べ語数の差が大きいのは、こうしたことが原因であると考えられる。

また、「激しい」が、なぜ「厳しい」より「程度が甚だしく」場合に使用されるのかという理由については、「厳しい」は使い古された表現になっており、強調表現としての目新しさに欠けてしまい、別の表現が求められたことも要因の一つと考えられる。「激しい」を用いた場合は、単なる「程度の甚だしさ」を意味する語として用いられているが、「厳しい」を用いた場合には別の意味が添えられるのではないかと考えられる。

3.2 その他の自然現象について

ここまで見た気象について用いられる場合は、「激しい」より「厳しい」が多く見られている場合である。こうした場合以外で自然現象を表す語について使用されている場合には「激しい」が「厳しい」と同じ程度に使用される場合や、「激しい」の方が多く使用されている場合が存している。それぞ

「厳しい寒さ」

(7) 犬の散歩をしていた男性は「激しい寒さの中でよう咲いとる。メジロも元気やの」と話した。(朝日 2021年2月19日)

「激しい」が用いられているのは、「暑さや寒さの程度は甚だしい」ものの、「平年並みであり、通常の季節と同様の寒さや暑さ」という想定される範囲内の場合に使用されている。「激しい」の場合とは異なって「好ましくない事柄」という意味合いは持っていない。そのため、これは「ひどい」にも置き換えることはできない。

また「暑さ」「寒さ」の類似の意味を持つ語として、「冷え込み」がある。この語の出現状況はやはり「激しい」が圧倒的に多く見られる。「激しい冷え込み」という表現は、風物詩のように定型的に用いられているのではないだろうか。

「冷え込み」 激しい冷え込み 朝日1522件 読売1860件 毎日1399件
激しい冷え込み 朝日6件 読売6件 毎日3件

これまでと同様に、件数が少ない「激しい」で表現されている場合について見る。

「激しい冷え込み」

(8) 激しい冷え込みで愛媛県丹原町の山中にある鞍瀬溪谷の滝が凍り付いた。(2002年3月23日)

用例(8)では、「滝が凍り付くほどの、想定外の冷え込み」を「激しい冷え込み」と表現している。「普段以上の甚だしい冷え込み」であることを意味している。こうした「程度の甚だしさ」を表現するのが主眼である場合には「激しい」への置き換えは容認度が低いのではないだろうか。

また、「寒さ」「暑さ」に類する場合として、「日差し」について用いられている場合がある。これも同様の傾向であり、「激しい」が多く存している。「日差し」 激しい日差し 朝日173件 読売197件 毎日163件

激しい日差し 朝日12件 読売14件 毎日4件

以上の結果を見ると、気温などの気象現象についての表現では、一般に「激しい」がより多く用いられている。「激しい」が用いられる場合は、「程度の

「暑さ」 厳しい暑さ 朝日1288件 読売1775件 毎日1204件

激しい暑さ 朝日24件 読売11件 毎日10件

「寒さ」 厳しい寒さ 朝日2309件 読売2356件 毎日2052件

激しい寒さ 朝日3件 読売3件 毎日3件

ここでも同様に、「激しい」が使用されているのはどのような場合であるのかについて、それぞれの用例を見ていく。

「激しい暑さ」

(4) 豪雨の後は、連日気温35度を超える激しい暑さが日本を襲い、各地で選手や観客の熱中症が相次いだ。(朝日新聞2018年7月31日)

「激しい寒さ」

(5) 激しい寒さに見舞われ、市内でも雪が降ったある夜、見回りと差し入れに同行した。(朝日2010年1月4日)

「35度を超える気温」や「市内での降雪」は、「予想以上」もしくは「例年にはない」特別な出来事であることを表現している。「暑さ」や「寒さ」に「激しい」が用いられている場合は、「程度の甚だしさ」を、特に強調する意味として使用されている。

また用例(4)や用例(5)の場合では、「激しい」をマイナスの評価を意味する「ひどい」に置き換えることができる。「ひどい」について辞書の記述を見ると「多く好ましくない事柄についていう」(『日本語新辞典』)とある。「激しい」が用いられる場合のすべてが「好ましくない事柄」に用いられる訳ではないが、ここでは「迷惑」や「被害」の意味を持っている。

「激しい」が用いられる場合は、「例年にない」や「異常な程度だ」といった特段の場合である場合に用いられている訳ではない。またこの語が用いられる場合は、必ずしも「好ましくない事柄」に用いられる場合でもない。以下、用例を見ていく。

「激しい暑さ」

(6) 「現地入りしてから激しい暑さの中で練習に取り組んできたが、9日は一転して涼しくなり、選手たちも体を休めることが出来た」(2021年8月10日)

「激しい」と「厳しい」の用法

事柄や出来事について意味の重点があると考えられる。

こうした状況は、気候の寒暖が極端な時期にだけ用いられるのだろうか。「春」「秋」の場合についてはBCCWJでは用例が検索されない。しかし新聞記事検索では、以下のような件数が存している。

「春」 厳しい春 朝日49件 読売32件 毎日34件

激しい春 朝日10件 読売6件 毎日6件

「秋」 厳しい秋 朝日13件 読売22件 毎日15件

激しい秋 朝日3件 読売3件 毎日7件

いずれも「厳しい」の方がやや多く見られるが、「夏」や「冬」の場合と比較すると、その差は小さいことがわかる。

これらについてその使用法を見ると、「気候」が「厳しい」様子について用いられているのは全115件中1件のみであることがわかる。これは、「春」や「夏」は、気候として甚だしい状況がある季節ではない。それでは具体的にどのような使用法であるのかについて見ると、卒業などを経て迎える「春の時期」の「新生活の厳しさ」や「花粉症の人にとって厳しい春」、「経済的な過酷さ」という場合に使用されていることがわかる。これは「秋」についても同様である。

「厳しい秋」

(3) 台風被害による食材の値上がりも追い打ちをかけており、厳しい秋を迎えている。(2019年10月2日)

季節は一つの区切りであり、その時期の気候についての表現ではなく景気や経済の状況について表現であることがわかる。

3.1.2 寒暖を表す語に「厳しい」「激しい」が用いられる場合

季節を表す語に関連して「寒さ」「暑さ」などの寒暖を表す語に用いられる場合ではどのような状況であるのか、次に見ていく。

「暑さ」「寒さ」についての延べ語数を比較すると、やはり全体的に「激しい」より「厳しい」の方がかなり多く使用されていることがわかる。

まず、新聞記事における出現件数を見ていく。

3.1 自然現象を表す語での「厳しい」と「激しい」の使用状況

3.1.1 季節を表す語に「厳しい」「激しい」が用いられる場合

まず、自然現象を表す語の中でも、季節を表す語について見ていく。ここでは、先に BCCWJ の検索で得られた語について、新聞記事検索を行った結果得られた用例及びその件数を示していく^(注2)。

| | | | | |
|-----|------|---------|---------|---------|
| 「夏」 | 厳しい夏 | 朝日132件 | 読売155件 | 毎日124件 |
| | 激しい夏 | 朝日6件 | 読売1件 | 毎日3件 |
| 「冬」 | 厳しい冬 | 朝日1685件 | 読売1397件 | 毎日1371件 |
| | 激しい冬 | 朝日6件 | 読売13件 | 毎日8件 |

これらでは、「夏」も「冬」も「厳しい」で表現される場合が多いことが顕著である。そこで以下では、延べ語数が少ない方の「激しい」で表現される場合に何か特徴はないか見ていくことにする。まず、「激しい」で表現される場合、新聞記事にその用例が最も早く出現する時期について示す。

「夏」 激しい夏 朝日1985年 読売1987年 毎日1992年

「冬」 激しい冬 朝日1996年 読売1990年 毎日1998年

このように、「激しい」が使用されている場合は、1985年頃からの使用例が存している。比較的新しいものの、ごく最近見られるようになったという訳ではないことがわかる。

それでは、「激しい」と「厳しい」には用法上どのような違いが存しているのか、以下用例を見ていく^(注3)。

「厳しい夏」

(1) 「人との十分な距離が取れる場合は、マスクを外したりするなど工夫をして、厳しい夏を乗り切りましょう」と述べた。(2020年8月26日)

「激しい夏」

(2) 8月下旬には残暑がぶり返すなど猛暑と大雨が繰り返す激しい夏だった。(1986年9月1日)

用例(1)は「夏の過酷な暑さ」を「厳しい」で表現している。

用例(2)は、「猛暑と大雨が繰り返す様子」が「激しい」で表現されている。「激しい」で表現される場合は、一度限りではなく何度か反復される

本的な和語。(『日本語 語感の辞典』)

- ・(3) ① この地方は夏の暑さがきびしい。
- ② 明日もきびしい冷え込みになるでしょう。
- ③ そんなことを言うと風当たりがきびしいぞ。

(3) 程度がはなはだしい様子を表す。ややマイナスイメージの語。「つよい」や「おおきい」よりも程度が大きく、対象にとって克服することが容易でない様子が暗示されている。表現自体は客観的で、「ひどい」や「きつい」のような被害者意識のニュアンスは暗示されていない。(『現代形容詞用法辞典』) これらの記述を見ると、『日本語新辞典』の用例には「激しい暑さ」があり、『現代形容詞用法辞典』の用例には「暑さがきびしい」とある。さらに使用される文体としては、『日本語 語感の辞典』に、両語とも「くだけた会話から硬い文章まで幅広く使用される」とある。この両語が用いられる際に、文体による差は存していないのだろうか。

また、「激しい」は「強く荒々しい」ことがポイントで、「厳しい」は「対象にとって克服することが容易でない様子」という『現代形容詞用法辞典』の記述が注目される。「厳しい」が使用される際には、何らかの価値判断が伴うのではないだろうか。

以下、これらの点を踏まえながら考察を進めていく。

3 使用状況の比較

ここでは、「激しい」と「厳しい」がどのような語を修飾しているの、それぞれの状況について見る。「厳しい」と「激しい」が共通して修飾する語にはどのようなものが存しているだろうか。方法としては「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」で「厳しい」がどのような語を修飾しているか検索を行い、そこで得られた語について「激しい」との関係を見ていく^(注1)。その結果、「厳しい」が修飾する語は延べ1006語存していた。そこで得られた1006語の名詞の中で注目していくのは先に示した「寒さ」「暑さ」を表す意味の語の他、「夏」「冬」「嵐」「雪」などの自然現象を表す語彙の場合である。これらは「激しい」と「激しい」で共通している場合が多く存している。以下、詳しく見ていく。

ことが可能である。しかし(1)の後半にある、「激しい雨」の場合について見ると、これを「厳しい」と置き換えると、その表現の容認度は低くなるのではないだろうか。これはどのようなことを意味するのだろうか。

「厳しい」と「激しい」は「程度が甚だしい」という意味には共通点が存している。しかし「程度が甚だしい」意味に用いられる両語について、そのすべての場合で置き換えられるわけではない。それではどのような相違点が存しているのだろうか。

本稿では、形容詞「はげしい」と「きびしい」が後接要素に名詞が来る用法を観察し、この二語が類義として用いられるのはどのような場合であり、両語の差異は、どのような点に存しているのかについて以下考えていくことにする。

2 「激しい」と「厳しい」についてのこれまでの記述

まず、「激しい」と「厳しい」が辞書類ではこれまでにどのような記述がされているのか、関連する意味の部分について、いくつか見ていく。

「はげしい」

- ・ 1 勢いが強い。そばで見聞きする人に衝撃を与えるほど、荒々しい。例 激しい口調。／激しい論争／ドアを激しくたたく／気性の激しい人。
- 2 程度が普通に考えられるよりはるかに甚だしい。例 激しい暑さ／高熱で激しいひきつけを起こす。(『日本語新辞典』)
- ・ 程度のはなはだしいことを表す語としては、ほかにもたくさんあるが、「はげしい」は強く荒々しい勢いにポイントがあり、動的な暗示がある。(『現代形容詞用法辞典』)
- ・ ものごとの程度や変化などの勢い強い様子をさし、くだけた会話から硬い文章まで幅広く使われる基本的な和語(『日本語 語感の辞典』)

「きびしい」

- ・ 寒暑など、物事の程度が甚だしい。例 残暑が厳しい。(『日本語新辞典』)
- ・ 人間の態度や様々な条件、社会情勢や自然環境などが余裕を与えない程緊迫している意で、くだけた会話から硬い文章まで幅広く使われる日常の基

「激しい」と「厳しい」の用法

漆 谷 広 樹

1 問題の所在

天気予報で「寒さが激しい」という表現を耳にした際、この「激しい」の使用法に何か違和感を持った。内省によれば「厳しい」を用いた方が自然な感じがしたからである。「激しい」と「厳しい」には「程度が甚だしい」という意味では類似する（もしくは意味が重なる）部分が存していると思われる。ただ例えば、「しつげが厳しい」のような場合では、「激しい」と「厳しい」の意味に重なる点は見られない。また例えば「往来が激しい」などの場合で「激しい」は「頻繁である」という意味であるが、「厳しい」はこうした意味は持っていないという違いが存している。「激しい」と「厳しい」が類似した意味を持つ場合には、その用法にどのような違いが存しているのだろうか。

まず、「激しい」と「厳しい」について、気温や天候に関係する意味を表す場合に類似した用法が見られる。

「激しい暑さ」

(1) 関東 厳しい暑さ 熱中症にも要警戒 天気急変で局地的に激しい雨も
(天気トピックス 日本気象協会 小野聡子 2021年7月31日)

この例では、「厳しい暑さ」は「甚だしい暑さ」という意味である。「厳しい」は「暑さの程度が強烈である」ことを意味している。この場合の「厳しい」は、「程度の甚だしさ」を意味する。例えば「厳しい人」の場合のように「厳格さ、緊迫感のあるさま」といった意味ではない。つまり天候などの状況で「程度の甚だしさ」を表す意味の「厳しい」については、「激しい」に置き換える